

平成 29 年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」 委員による報告会の開催について

- ・「国保連合会保健事業支援・評価委員会」委員による報告会については、平成 26、27、28 年度開催した。
- ・平成 28 年度は、前年度の報告会参加者のアンケート結果では、より多くの事例の情報を得たいといった要望を受け、保険者等への効果的な支援を実施するための支援策として、運営委員会並びに国保中央会は、ヘルスサポート事業の 3 年目にも支援・評価委員会の委員、事務局に向けた報告会を開催した。支援する側である支援・評価委員会の委員 4 名、支援される側である保険者 2 名、それらを支える事務局の代表者 2 名によるリレートーク形式での事例発表を行った。
- ・平成 29 年度は、第 1 期データヘルス計画の推進にあたり、支援・評価委員会の支援による成果と課題を共有し、第 2 期データ計画に向けた効果的・効率的な保険者等の支援のあり方について意見交換を行う。
- ・今般、平成 28 年度に引き続き、平成 29 年度「国保連合会保健事業支援・評価委員会」委員による報告会を平成 29 年 10 月（予定）に開催する。

(1)開催日時(予定)

平成 29 年 10 月(予定)

※午前(10 時～12 時) 国保連合会事務局(職員)による情報交換会の開催を予定

(2)報告会の参加対象者

保健事業支援・評価委員会委員(各都道府県代表者 1 名ずつ)

保健事業支援・評価委員会事務局担当者(各都道府県代表者 1 名ずつ)

平成28年度報告会アンケート結果より

1. 課題や問題点等の解消の参考になったか

(1) 支援・評価委員

| | | |
|-----------|------|--------|
| とても参考になった | 18 人 | 52.9% |
| 参考になった | 16 人 | 47.1% |
| 計 | 34 人 | 100.0% |

(2) 事務局

| | | |
|-----------|------|--------|
| とても参考になった | 16 人 | 30.2% |
| 参考になった | 35 人 | 66.0% |
| 参考にならなかった | 2 人 | 3.8% |
| 計 | 53 人 | 100.0% |

※2名出席だが、1名分として回答している連合会が1。

2. 平成 29 年度以降の報告会の開催について

(1) 支援・評価委員

| | | |
|-------------|------|--------|
| 今回と同様の内容で実施 | 24 人 | 70.6% |
| 内容を変更して実施 | 10 人 | 29.4% |
| 計 | 34 人 | 100.0% |

→P3 参照

(2) 事務局

| | | |
|-------------|------|--------|
| 今回と同様の内容で実施 | 28 人 | 52.8% |
| 内容を変更して実施 | 25 人 | 47.2% |
| 計 | 53 人 | 100.0% |

→P3 参照

平成 29 年度以降の報告会開催について(意見)

(1) 支援・評価委員

| | |
|---|--|
| 1 | 多くの保険者は優先順位の高い改善可能性の高い取り組みに向け、かなり努力していると思います。データヘルス計画目標達成の課題は、医師会との連携協力と壮年期特に男性の健康意識に対する課題が大きいと思う。そこで、医師会や小規模事業所等と連携協力がうまくいっている都道府県の状況を知りたい。 |
| 2 | 今回はかなり意見や具体的な発表をした。委員は日常的に国保保健事業のことばかり考えているわけではないので、事前にディスカッションの枠組みだけでもお示していただけると、資料準備や頭の整理をして臨めると思う。 |
| 3 | 費用対効果の分析をきちんと評価した報告を期待する。そのためには、次の報告会では、分析がきちんとできる専門家に、あらかじめデータをいろいろな切り口で、詳細に検討していただいた上で、報告していただきたい。 |
| 4 | 絶対的な成功例というものは存在しないと思いますが、リレートーク部分についてもう少し参考になれるような構成にしてもらえると幸いです。 |
| 5 | リレートークという形は興味あるが、発表者を 2,3 に絞り、少なくとも 30 分位の時間を与え、発表する形式の方が、効果的と考えます。 |
| 6 | 事業の評価について、保険者にはストラクチャー、プロセス、アウトプット、アウトカムの違いが分かりにくいようである。また、なかなか客観的に自己評価することになれていない保険者も多い。保険者と評価支援委員会の意見交換を通じて評価が深まった先進例などを紹介していただきたい。 |
| 7 | 特徴的な支援評価方法の実例。 支援・評価で変化のあった具体的保険者事例。PDCA サイクルで改善した事例等ポイントを絞って事例発表なり、パネルトークなり行ってはどうか。 |

(2) 事務局

| | |
|---|---|
| 1 | それぞれの連合会の進捗状況や運営上の課題を把握しつつ、好事例を全国に発信して欲しい。 |
| 2 | 他県の実施方法の詳細を知ることからはじめないと、情報交換自体が難しいように思えたので、事前に他県の詳細を知る時間が必要だと感じた。もしくは、情報交換の時間を長く取るなど。 |
| 3 | リレートークについては、それぞれの立場で感じたことや実施したことがわかって良かった。次回は、第 2 期データヘルス計画策定に当たっての留意点などの説明があるとよいのではないかな。また、今回のように、好事例を参考に保険者へフィードバックが出来ると良いのではないかな。 |
| 4 | 保険者から提出される評価関係の書類のうち、「ストラクチャー」「プロセス」の部分の記載が適切でなく、また、「アウトプット」「アウトカム」においては、具体性がないなど評価後の事業見直しの参考とならない目標となっている保険者が多く見受けられる。このことから、資料として提示するための参考となる講演会をお願いします。 |
| 5 | 事前に支援・評価委員会の事務局が課題と感じていることを集約し、それについてグループワークを行うなど、的を絞ってほしい。 |
| 6 | 大きな変更ではありませんが、あらかじめ当日のグループディスカッションで議論をする内容を一つに絞り、事前に周知して、各県の委員会で意見調整をしたうえで報告会にてまとめるといった方が、事業全体が少なくとも前進していくと思います。 |
| 7 | 都道府県によってさまざまな支援が実施されているが、その支援を受けて保険者がどのように感じているか、またはどのような効果を出しているのか情報をいただきたい。 |
| 8 | 情報交換・事例発表だけでなく、課題に対する解決策等の回答をいただきたい。また、KDB を活用した支援方法等具体的な KDB 活用研修会や、評価する共通のフォーマットの作成等事務局と委員が共通認識をもって支援・評価できる内容を取り入れてほしい。 |
| 9 | 委員会で独自に作成している資料やツールの紹介をしていただけると助かります。また、どんな支援をしたら、どのように変化したか?という事例もたくさん聴きたいです。また、データの読み解き方などの研修について人数が多くなって大変になるとは思いますが、市町村間の横の連携と事務局である連合会の関係、また、他県の市町村間同志の「生」の情報交換の場があると、モチベーションも高くなるのではないかと考えます。 |